

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①コミュニケーション能力の向上を目指すことにより、社会科・生活科を始めとして各教科、生活の中における様々な場面で自分の考えをもって明確に伝えるとともに、相手の思いを汲み取って、互いに高め合える関係を構築できるよう指導を進めていきます。 ②問題解決学習及び特別支援教育の充実を通して、友達との協同的な学びを大切にするとともに誰もが安心して授業に臨めるよう進めていきます。	・学年で教材研究や資料の作成を行い、子どもが意欲をもって取り組めるような学習を展開できるように努めた。またペア・グループ学習を取り入れ、積極的に思いや考えを表現できるようにし、伝え合うことの楽しさを味わうことができるよう、学習の展開工夫してきた。 ・日々、安心して自分の考えを表現できる学級づくりに努め、それぞれの考えを発信し、自ら追及する姿勢をもって、高め合うことのできる授業づくりをしてきた。	A
豊かな心	①道徳の時間を充実し、授業を年1回公開します。道徳教育についても、学校だよりや学年だより等に於いて家庭や地域に発信し、意識を高める活動を図りながら、家庭や地域と連携しながら子どもの健やかな成長を育みます。 ②体験活動を充実し、異学年交流等を行いながら自己有用感を高めます。	・家庭との連携を図り、子どもたちが自分の成長を確かめ、喜びを十分に味わえるような学習を1年間通して行ってきた。道徳の授業だけでなく、日々の何気ない日常生活の中で、心を育む指導に努めてきた。また、相手の思いを大事にしながら、小集団での話し合い活動を通して、いろいろな考えに触れながら、相手を思いやりの心を育てるように努めた。学習の中や行事の中での他学年との交流を通し、自ら積極的に他学年の児童に関わろうという意識が出てきた。	B
健やかな体	①子どもたちの生活習慣を整えていきます。 ②教科体育を充実させます。 ③遊びを通して、体力向上を図ります。(水曜日ロング中休み) ④教師の専門性を生かした活動を促進します。(高学年の特設運動クラブ)	・ナントツ子すくすく会議で姿勢について取り組むなど、自分たちの健康について積極的に考える機会を設けた。児童の生活習慣については、さらに保護者の協力が必要であると感じる。 ・体育の授業では、学年合同で行うことにより子どもの意欲を高めることができた。	B
教育課程学習指導	社会科・生活科の学習を中心に、自分の考えを発信するとともに相手の考えを受け止める交流の機会を位置付けながら、思考を広げたり深めたりできるコミュニケーション能力の向上を目指します。教員1人あたり年間に1回研究授業を行い、授業力を高めます。	・コミュニケーション能力の育成を念頭に置いた授業づくりに取り組んできていた。児童の中にも友達との交流を楽しむ姿勢が出てきている。 ・学年で研究授業に取り組むことで、教材研究を行い、教材への理解を深め、授業力の向上に努めた。また、教材研究をしたことをもとに子どもたちの関心・意欲を高められるような手立てを考へることができた。	A
児童指導	挨拶をしたりルールを守ったりできるよう全職員で共通理解を図り、学年に応じた指導を行います。いじめについては「南戸塚小いじめ防止基本方針」に基づき、丁寧な実態把握に基づく早期発見早期対応に努め、いじめは絶対に許さないという意識を高めます	・学年で情報交換を密にし、機会があるごとに児童の様子をよく見て実態を共有し、日々指導を行っている。また、声を掛けることで子どもたちに(見守られている)という安心感をもたせるようにしてきた。 ・いじめについてはアンテナを張るとともに絶対に許さないという意識を高めるよう努めた。 ・子ども同士のトラブルがあったときは、学年での共通理解を図り、専任の協力を得ながら、話を聞き取り、児童の指導だけでなく、保護者にも共通理解のもとに協力をお願いした。 ・気持ちよく挨拶できる子どもが増えてきた。自分から進んで挨拶できる子どもをさらに、育てて	B
特別支援教育	特別支援コーディネーター複数配置、児童支援専任を中心とした組織的な対応、特別な教育的支援を要する子どもへの共感的な児童理解を大切に、個に応じた支援体制を充実させます。	・常に学年で児童の共通理解を図り、適切な情報交換と報告を行ってきた。学年で統一した観点をもち、専任とも密に連携を取り、個に応じた支援体制を組み、取り組めた。	A
安全管理	児童の安全を第一に考え、日常的教育活動はもちろん行事や校外学習等での安全に配慮し、事前指導や下検分など、けがや事故の防止の対策を徹底します。学校生活においても安心・安全に過ごせるよう、教職員の危機管理意識を高めます。	・校外学習や社会科見学等が多かったため、その都度集団での歩き方やバス・電車内でのマナーを確認し、安全に校外学習が行えるよう声をかけていった。 ・雨の日の教室内での過ごし方や廊下の歩き方についての指導、安全に気をつけて学校生活を送れるよう声をかけた。 ・朝の会、帰りの体育の時間の前後の健康観察をし、体調、けがの早期把握に努め、個に応じたきめ細やかな児童指導が出来ている。	A
人材育成・組織運営	①メンターチームを充実させるとともに、充実した学年研を実施し「学級担任」から「学年担任」としての意識を高めます。児童指導にかかわる情報を共有するとともに、互いの指導力の向上を図ります。 ②校内研修を計画的に実施し、人権教育・児童指導、危機管理対応能力などの教師の力量を向上させていきます。 ③会議の重要性、効率性を追求し、子どもに対応できる時間を増やします。	・学年研等で児童指導に関わる情報を共有するとともに、さらに支援の方法についても常に話し合いを行って対応している。 ・人権感覚を高め合い、日々、意識して指導に当たっている。より良いメンターでの研修を行うために、所属する教員で話し合いながら年間計画立てた。日々の指導にすぐ生かせるように実技科目や児童指導を中心に研修を行った。	B
ブロック内相互評価後の気付き	・三校合同の研修会や授業研究会を重ねてきたことで、それぞれの学校の様子の理解が互いに進み、職員同士の距離も縮まった。9年間を見直し、継続性のある学習指導や、個々の児童に沿った対応などに生かすことができている。 ・教師の人権感覚を高めることや子ども同士のよりよい関わり、いじめの発見や対応など、学校独自はもちろんのこと、三校合同研修を通して成果が上がってきている。 ・今後は、ブロック目標を念頭におき、さらに学習、生活指導の質を高めていきたい。		
学校関係者評価	子どもあいつつに関しては、生活実態調査の結果からも課題としてあがっており、校内で「あいさつ運動」等を計画し指導を続けているが、学校だけではなく、まちの中でも子どもたちに関わっていただくことができた。さらに子どもたちの実態を共有することで、放課後の安全指導等、同じ方向性で関わっていただくことができた。委員の方からは、「小学校を訪問した時の空気には、温かさや穏やかさを感じる。」「玄関周りの状況、出会う職員の挨拶や表情に心地よいのを感じます。」等、職員の努力に対しても高評価をいただいた。		
学校経営中期取組目標振り返り	○コミュニケーション力の向上を大切に考えた授業づくりの積み重ねにより、協同的な学びやだれもが安心して受けられる授業を目指し、授業力の向上を図ってきた。今後は子どもたちのさらなる主体性を育み、学習問題に対して子ども同士が意見や考えをつなぎ合うような学習活動を目指していく。 ○自己肯定感を高められるようにしていくとともに、様々な場面で相手を思いやる心や態度を引き続き育てていく。		

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①コミュニケーション能力の向上を目指します。今年度は算数を中心に各教科において、問題解決に向けた共同作業の場を設定し、その中で積極的に自分の考えを伝えようとし、相手の話を理解しようとしながら聴く姿勢を身に付けられるような指導を進めていきます。 ②誰もが安心して授業に臨める学級集団の中で、一人ひとりが個に応じた課題に生き生きと取り組めるようにしていきます。また、特別支援教育の観点を取り入れ、落ち着いた学習環境の中で、わかりやすい授業を目指します。	・コミュニケーション能力の向上を目指し、誰もが安心して授業に臨める学級集団の中で、相手に分かりやすく伝えることを意識して伝えられるように支援してきた。 ・ペア学習やグループ学習を取り入れたり、コース別学習を取り入れたりすることで、安心感をもって自分の考えを表現できる児童が増えた。自分の考えを安心して発言できる場の設定をした。 ・授業の始まりと終わりのあいさつや時間を意識して、メリハリをつけることで落ち着いた学習環境になるように努め、学習における基本的な流れ(めあて・まとめ・学習感想等)を定着させることができた。	A
豊かな心	①道徳の時間の充実を図り、授業を年1回公開します。道徳教育についても、学校だよりや学年だより等発信しながら、家庭や地域とも協力して子どもたちの健全な成長を目指し、いじめの未然防止にもつなげます。 ②体験活動を充実させ、任された役割をやり遂げる経験を通して、自己有用感を高めていきます。また、縦割り活動を通して、積極的に異年齢交流を図ります。	・学習や特別活動、行事や日常生活の中で体験活動を充実させ、役割をやり遂げる経験を通して、自己有用感を高められた。 ・たてわり活動だけでなく、休み時間等の自然な交流を通して異年齢の交流の姿が見られるようになった。 ・学年全体で児童の様子や情報交換を密にし、児童理解・いじめの未然防止に取り組んだ。 ・道徳の授業はもちろん、生活全般において互いを理解し合うことの大切さを取り上げてきた。トラブルがあったときは、その都度納得ができるよう解決できるように努めた。また、保護者との連絡も密に取り合ってきた。	B
健やかな体	①子どもたちの生活習慣を整えていきます。 ②教科体育を充実させます。 ③遊びを通して、体力向上を図ります。(水曜日ロング中休みの設定) ④教師の専門性を生かした活動を促進します。	・体育学習においては、多様な動きや運動量を意識して取り組んできた。それによって、男女ともに外に出て遊び、体を動かす楽しさを感じている。	B
いじめへの対応	①児童支援専任を核とした組織的な児童指導・支援体制を整え、教職員がチームとしていじめ等の問題行動の早期発見と早期対応に取り組めます。 ②「南戸塚小いじめ防止基本方針」に基づき、丁寧な実態把握に努めると共に、子どもたちがいじめは絶対に許さないという意識を高めます	・毎月はいじめ防止対策委員会等で情報を共有し、組織的な対応を心がけてきた。 ・いじめに関する職員研修を定期的に行い、職員の意識を高めるとともに対応の仕方を共有することができた。 ・気になる事実があった場合はその都度指導を行い、子どもたちの意識を高めることができた。	B
児童指導	しっかりと挨拶をしたりルールを守ったりできるよう、全職員が、ぶれない指導に向けての共通理解を図ります。また、特に児童理解に重点を置き、日常のコミュニケーションを大切にしながら、発達段階に応じた丁寧な指導を行います。	・ぶれない指導に向けて学年での共通理解を図ることができた。特に児童理解に重点を置き、日常のコミュニケーションを大切にしながら、発達段階に応じた丁寧な指導を行った。子どもたちがいじめは絶対に許さないという意識を高めることができた。 ・児童の中でトラブルが起きた際は専任にも伝え、担任とチームで動き、早期解決をはかっている。 ・必要に応じて学校全体でルールの確認を行い、規範意識をもつことの大切さを指導してきた。また、教職員全員で同じ認識で指導に当たることができた。	B
特別支援教育	①特別支援コーディネーターを複数配置し、配慮を必要とする児童に対して、共感的な児童理解を大切に、個に応じた支援体制を充実させます。 ②ユニバーサルデザインに関する研修を実施し、職員の理解を深めます。	・配慮を必要とする児童に対して、共感的な児童理解を大切に、個に応じた支援体制を充実させるべく努力した。 ・特別支援非常勤講師と学級担任との連絡調整を行い、配慮を要する児童への学習支援を適切に行えた。 ・特別支援委員会の場での共有や研修は意味のあるものだった。	B
安全管理	児童の安全を第一に考え、日常的教育活動はもちろん行事や校外学習等での安全に配慮し、事前指導や下検分など、けがや事故の未然防止に向けた対策を徹底します。学校生活においても安心・安全に過ごせるよう、教職員の危機管理意識を高めます。	・常に危機管理の意識をもち、日常生活でも危険を未然に防止できるように、環境整備や声掛けに努めた。 ・児童の安全を第一に考え、行事や校外学習等での安全に配慮し、事前指導や下検分など、けがや事故の未然防止に向けた対策をした。	A
人材育成・組織運営	①メンターチームを充実させるとともに、充実した学年研を実施し「学級担任」から「学年担任」としての意識を広げ、児童指導にかかわる情報を共有するとともに、互いの指導力の向上を図ります。 ②校内研修を計画的に実施し、人権教育・児童指導、危機管理対応能力などの教師の力量を向上させていきます。 ③会議の重要性に基づき精選と、効率性を追求し、子どもに対応できる時間を増やします。	・学年研を中心に、学年で情報交換を密に行ってきた。教材研究と一緒に進めたり、児童指導に関わる情報を共有し、対応したりして、全員で指導力の向上を目指してきた。 ・メンターチーム内で気軽に相談できる人間関係を作ったり、学年担任としての意識を強くもつたりすることにより、指導力向上に努めてきた。 ・児童指導や危機管理対応などの共通理解ができた。	B
ブロック内相互評価後の気付き	小中連携は、形だけでなく、ねらいをもって内容がともなったものになってきており、積み重ねが成果にあらわれてきている。キーワードを設定して授業参観することで、その後の研究協議に深まりがでている。小学校での学びや互いを認め合う素地がある中で、中学校で、話し合いがきちんと成立している。低学年の基礎基本の確立から高学年の発信力へと、段階を追ったカリキュラムになっている。ふれあいコンサートなど、学生が中学生の姿を見て、期待が高められる機会があることが大切である。		
学校関係者評価	全学年を通して校内校外を問わず「発表」「教え合い」「討議」という主体的な学びが見られた。更に他者を受け入れ理解しようとし、お互いの個性を認め合う姿も見られる。あいさつ活動に力を入れていることが伝わってきたが、校外では「警戒心」が強く感じられる。昨今の事情と考慮するが、他との積極的なコミュニケーション力は引き続きの課題である。		
学校経営中期取組目標振り返り	日々の学習や行事の中で、一人ひとりの子どもたちに役割を自覚させ、集団生活の中での自己有用感を育ててきた。全体の場で堂々と発表する姿や授業中の発言などにも少しずつ自信に裏付けられた自尊感情の高まりが感じられるようになってきている。今後も授業の中に体験活動や小集団による話し合い活動や他者に説明する場面を積極的に取り入れ、学力の定着とコミュニケーション能力のさらなる向上を目指す。また、子どもたちが元々持っている素直で温厚な性質に、積極性や主体性が加わるように学習や行事での達成感・成就感を大切にしていきたい。		

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①コミュニケーション能力の向上を目指します。今年度も算数を中心に各教科において、問題解決に向けた共同作業の場を意図的に設定し、その中で積極的に自分の考えを伝えようとし、相手の話を理解しようとしながら聴く姿勢を身に付けられるような指導を進めていきます。 ②誰もが安心して授業に臨める学級集団の中で、一人ひとりが個に応じた課題に生き生きと取り組めるようにしていきます。また、特別支援教育の観点を取り入れ、落ち着いた学習環境の中で、わかりやすい授業を目指します。		
豊かな心	①道徳の時間の充実を図り、授業を年1回公開します。道徳教育の具体的な内容について、学校だよりや学年だより等で発信しながら、家庭や地域とも協力して子どもたちの健全な心の成長を目指し、いじめの未然防止にもつなげます。 ②体験活動を充実させ、任された役割をやり遂げる経験を通して、自己有用感を高めていきます。また、縦割り活動を通して、積極的に異年齢交流を図ります。		
健やかな体	①子どもたちの生活習慣を整えていきます。 ②教科体育を充実させます。 ③遊びを通して、体力向上を図ります。(水曜日ロング中休みの設定) ④児童会組織を核とした体育的な活動を促進します。		
いじめへの対応	①児童支援専任を核とした組織的な児童指導・支援体制を整え、教職員がチームとしていじめ等の問題行動の早期発見と早期対応と未然防止に取り組めます。 ②「南戸塚小いじめ防止基本方針」に基づき、丁寧な実態把握に努めると共に、日々の教育活動の中で子どもたちがいじめは絶対に許さないという意識を高めます		
児童指導	しっかりと集団生活におけるルールを守るように、全職員によるぶれない指導の徹底に向けた共通理解を図ります。また、特に児童理解に重点を置き、あいさつを基本とした日常のコミュニケーションを大切にしながら、発達段階に応じた丁寧な指導を行います。		
特別支援教育	①特別支援コーディネーターを複数配置し、配慮を必要とする児童に対して、共感的な児童理解を大切にしながら、個に応じた支援体制を充実させます。 ②ユニバーサルデザインに関する研修を実施し、職員の理解を深めます。		
安全管理	児童の安全を第一に考え、日常的教育活動はもちろん行事や校外学習等での安全に十分配慮し、下検分や事前指導などにより、けがや事故の未然防止に向けた対策を徹底します。学校生活においても子どもたちが安心・安全に過ごせるよう、環境整備を推進すると共に、安全配慮義務に基づく教職員の危機管理意識を高めていきます。		
人材育成・組織運営	①メンターチームを充実させるとともに、充実した学年研を通して「学年担任」という意識で児童指導に関わる中で、情報を共有しながら互いの指導力の向上を目指します。 ②校内研修を計画的に実施し、人権教育・児童指導、危機管理対応能力などの教師の力量を向上させていきます。 ③会議等の効率化を図り、教職員が子どもたちと十分にふれ合える時間を確保していきます。		
ブロック内相互評価後の気付き			
学校関係者評価			
学校経営中期取組目標振り返り			